

誰も知らなかった抜け毛、薄毛、白髪メカニズム

「抜け毛が減少した。産毛が出てきた。髪が太くなった。髪が増えてきた。白髪が黒髪になった。続々と驚く現象が現われる、栄養カクテル療法について」

日本健康食材有限会社
代表取締役 中山繁雄

外からの栄養、刺激だけでは髪は生えない

- 1、髪はそもそも皮膚の発達したもの、頭皮も皮膚である。
- 2、皮膚に外から物質を取り入れるような機能が基本的に備わっていない。
- 3、皮脂や汗を見ても解るように、体の内部から老廃物を排泄するのが皮膚の重要な作用である。

髪の重要な働き

- 1、髪は大切な脳を寒さ、暑さから守る温度調整の役目。
- 2、頭皮を紫外線、化学物質、外部刺激から守る。
- 3、毛根は知覚伝達神経とつながり、外部刺激に反応して危険から身を守る。
- 4、髪は有害重金属を排泄する重要な器官。
有害な重金属である水銀、鉛、砒素、アルミニウム、カドミウムなどが食品、飲料水、食器、調理器具などから微量に体内に入ってきます。
昨今、農薬などの影響により、日ごと有害重金属の体内摂取量が増えていきます。
- 5、髪が細くなり、少なくなると排泄が制限されてその分、内臓に蓄積され、負担を与えとも言われます。

育毛メカニズム

- 1、育毛メカニズムは毛根の根にあり、毛乳頭と毛母組織にある。
- 2、毛母細胞が細胞分裂して外へ外へと伸びてくるので、毛乳頭と毛母組織に栄養と原料を供給する。
- 3、細毛、薄毛とは1本の髪の太い部分と細い部分をさしている。
- 4、髪は毛母細胞が細胞分裂して作られ、徐々に外に押し出される。
毛乳頭が毛根神経を通して情報をもらい、毛細血管からの栄養分を受け取り、毛母細胞が細胞分裂を行います。
- 5、先に作られて外に出てくる部分ほど細く、新しく作られた根元の方が太くなってくる。

髪 の 育 ち 方

- 1、髪は人間の体の中で細胞分裂が最も活発な場所です。
- 2、通常髪は、1日に約0.3~0.4mmずつ伸びているとも言われます。
- 3、平均的な日本人の毛髪本数は10万本とされています。
- 4、1日の伸びる総合計は30~40mに相当します。
- 5、髪の原料となるアミノ酸が育毛に必要な組成です。

髪 の サイクル

- 1、髪にはヘアサイクル（毛周期）があります。
発毛期（細く柔らかい）→成長期（太く硬い、5~6年）→退行期（約3週間）→休止期（抜け毛）
- 2、髪はまず毛包が作られ、毛母細胞が刺激を受けて、細い髪から成長をはじめます。最初は細く柔らかな髪が段々と太く硬い髪に変化していく。
- 3、この間の成長期間が5~6年といわれています。
- 4、通常、1日に50本から60本はヘアサイクルで抜け替わるといわれており、1日、50本から60本の抜け毛は普通と考えられます。

加 齢、ス ト レ ス と 白 髪、抜 け 毛 の 関 係

- 1、加齢、ストレスは脳の働きにより、ホルモンの分泌を微妙に狂わせ、その結果、ホルモンの分泌過剰や低下の影響を及ぼすのではないかと考えられています。
- 2、毛髪で特に影響されるのが甲状腺ホルモンで、脳下垂体から出る甲状腺刺激ホルモンに、加齢、ストレスが影響を及ぼし、甲状腺刺激ホルモンの分泌の微量低下を招くのではないかと考えられます。
- 3、何故なら、甲状腺機能低下症の場合、脱毛現象が激しく、爪は薄くて脆くなる、そして爪には筋が入るようになります。
- 4、このような甲状腺機能低下症ほどの機能低下を招かない、正常から機能低下症の中間レベル（不顕生）の、甲状腺機能低下が白髪、抜け毛の最大要因ではないかと考えられます。（アメリカ、自然療法医学書、参照）
370人の60歳から97歳の高齢者を調査した結果、40%の人が機能低下、もしくは過去に機能低下があった事が判明したのです。
不顕生の場合も考慮するとその数値は飛躍的に高くなるものと思われ、白髪、抜け毛、薄毛の人の総数に匹敵する可能性があると考えられます。
- 5、以上のような考察から、加齢、ストレス過多、薬害、遺伝による影響を受けている人々が、白髪、抜け毛に悩まされるのではないかと考察します。

甲状腺機能低下症の発病率は40%にもものほる

- 1、脳下垂体は、甲状腺刺激ホルモン（TSH）の分泌を通じて甲状腺活性を調整しています。
- 2、脳下垂体による甲状腺刺激の欠乏、ホルモン合成の障害、またはT4（サイロキシン）からT3（トリヨードサイロキシン）への細胞変換が正常に機能しないことによる。
- 3、60歳～97歳の高齢者被験者370人について行った研究では、その40%が現在、または過去において、甲状腺に障害を抱えていた事が判明している。（アメリカ、自然療法医学書、参照）
- 4、このように、甲状腺機能低下症は加齢と共に着実に増加する事が判明しています。
- 5、軽度の甲状腺機能低下症は不顕在であり、多くが発症を見逃している恐れがあります。
- 6、抜け毛、薄毛、白髪問題の多くは、不顕生レベルでの甲状腺機能の微妙な低下がもたらす結果ではないかと考えられます。

「抜け毛、白髪のメカニズム」についての考察

- 1、加齢、ストレス過多、薬害、遺伝による、脳下垂体から出る甲状腺刺激ホルモンの分泌低下。
- 2、甲状腺刺激ホルモンの分泌低下による、甲状腺ホルモンの微妙な分泌低下。
- 3、甲状腺ホルモンの微妙な分泌低下による、毛母細胞への刺激の低下。
- 4、毛母細胞の活動低下による、髪の毛の活力低下、抜け毛、白髪の増加。

「栄養カクテル療法」体質改善から

- 1、抜け毛の改善方法として、体質改善を目的とし、脳細胞の活性化作用、腸内活性化作用がありアミノ酸やミネラルをバランス良く含んだ食品で、体を内側から元気にする食品を開発して治験を重ねました。
- 2、飲み始めて1ヶ月で、抜け毛が少なくなるという報告が多くあります。
- 3、増毛、発毛に関する報告は3ヶ月を過ぎてから多くなり、白髪が改善し始めたという報告と同じように入ってきています。
- 4、抜け毛が減った、産毛が生えてきた、髪の毛が強くなった、硬くなってきた、髪の毛の間隔が狭くなってきた、黒髪が増えた、等も一緒に報告されます。
- 5、同じ1人の方から髪が元気になり、黒くなってきた、産毛が増えてきた

等、複数の項目についての報告が多く来ています。

- 6、強度のストレス及びヘビースモウカーについては、栄養カクテル療法を試みても、抜け毛が止まらない発毛、増毛が起こらない可能性があります。

髪が育ち始めるまでに3ヶ月が必用

- 1、育毛に関してですが、急激に髪は伸びたり太くなったりはしない物である事を認識する必用があります。
- 2、赤ちゃんの髪は産毛から2～3年ほどで腰が強くなり、成人の髪ほどにしっかりして来るのに5～6年かかるといわれます。
- 3、再び伸び始めた髪を検証して判明したことです、産毛が出始めてから腰の強い髪に成長するまでに数ヶ月の歳月を要すると見られます。
- 4、3ヶ月で甲状腺のホルモンバランスが確立され、その後、問題がなければ髪が育ち始めるといわれます。
- 5、例えば甲状腺が抗がん剤の影響を受けて、激しい脱毛現象が起きますが、元のように生えて出て来るまでに3ヶ月は必用といわれています。
- 6、実際に頭頂部が禿げ上がった人のケース（H氏、飲用6ヶ月を経過）
 - (1) 残っている髪の抜け毛が止まる→(2) 残っている髪に腰が出てくる、太くなる→(3) 白髪が少なくなる、残っている髪の周辺に産毛が出てくる、毛が密集して来る→(4) 禿げ上がっていた部分は痒くなる→(5) 毛穴が出来てくる→(6) 産毛が出てくる→(7) 細い髪が成長を続けている

その他 爪が丈夫になる、綺麗になる、便通が良くなる、肌つやが良くなる、冷え性が改善した、耳鳴りが少なくなった、頭がすっきりした、気力が出てきた等の甲状腺機能の微量低下に伴うと思われる様々な症状が改善したという改善報告が得られている。

黒髪のメカニズム

- 1、髪の毛が黒いのはメラニンという色素。
- 2、メラニンはアミノ酸のチロシンがメラニン生産細胞のなかでチロシナーゼという酵素によって活性化され、さらに数段階の反応を経て作られる。
- 3、メラニンを作るのも、髪を作るのも同じ毛母細胞である。
- 4、作られたメラニンは髪の成長と共に髪の中に送り込まれ、髪が黒くなっていく。

白髪の原因

- 1、アミノ酸のチロシンがメラニンに変化しない為である。変化しない原因は現代医学ではまだ判明していない。
- 2、白髪の原因はまだ医学的には判明していないが、当社では抜け毛と同じ要因である老化、ストレス、薬害、遺伝等によるホルモン分泌の微妙な低下、減少が及ぼす影響ではないかと考えています。

白髪の改善方法は、抜け毛改善方法と同じ

- 1、白髪の改善方法として、抜け毛と同じ原因との見地から、体質改善を目的に脳細胞の活性化、腸内活性化、ミネラル、アミノ酸等をバランス良く含んだ食品を開発し、体の中から元気にする食品を開発し、臨床を重ねました。
- 2、継続摂取すると、早い人で10日目、遅い人でも1ヶ月目から白髪が黒髪に変化している事が判明しました。しかもテストした30人中29人まで、一部の髪が黒くなって来ています。残りの一人はまだ第三者による検証が出来ていません。
- 3、一度に全ての白髪が黒くなるのではなく、毛周期に応じて変化していると思われます。その結果、髪全体が白い人の場合、全体が黒くなるには2年から3年の月日を要するものと思われます。
- 4、白髪の毛根部が黒くなり始めると、1日のうちに1本の髪全体が黒くなってしまふ事が確認できます。
- 5、100%白髪である人の場合、約1ヶ月で一部の黒髪が出始めているのを確認出来ます。
- 6、逆に黒髪が90%は白髪が10%の場合、白髪の部分が毛周期の変化サイクルの変化と合致しないと変化しない為、黒髪の発見には時間がかかると考えられます。
- 7、髪が黒くなる部位については、一番早くなる部位は後頭部、次に頭頂部、前頭部、両側頭部といった順番で黒くなる。つまり、白くなっていった逆の順で黒くなく傾向が見られます。
- 8、強度のストレスがある、又は、ヘビースモウカーの場合は変化に時間がかかるか、変化が起きにくいものと考えられます。

白髪は白く見えるが、白ではなく半透明だった

- 1、韓国、ソウル在住、56歳の会社社長、H.J.YOOさんは当社食品を飲み始めて10日目で黒髪を発見、韓国最大手の育毛専門会社では始め、信じていなかったが、現実には黒髪に変化する状態をマイクロスコープで写真に取り始めました。

- 2、最初、根元から円筒状の内部に色素が充填され始めると、その日のうちに先端まで黒くなる事が判明しました。
- 3、髪は、白か、黒の二色しかないと思っていたが、黒髪に変化し始めた髪はストライプ模様になっている事が判明しました。
- 4、両外が半透明、内側が黒という円筒状。
- 5、時間と共に円筒状の外側、半透明の組織にも十分に色素が充填されて、ようやく1本の髪全体が黒くなって見える。
- 6、このように、白髪は白く見えているが実は、半透明のチューブのようになっています。

髪の主成分

主成分は18種類のアミノ酸から作られたケラチンというタンパク質。

髪、爪、の主成分は硬ケラチン

- 1、生きた表皮細胞は、体表に出てくるにつれて角質細胞となり角層を形成する。
- 2、角層主成分はケラチンと呼ばれているタンパク質で、強靱で弾力性があり、皮膚では下部組織を保護したり、髪や爪を作ったりしている。
- 3、髪や爪の場合は、硬ケラチン、柔らかい皮膚角質の場合は軟ケラチンと呼ばれている。
- 4、髪や爪は甲状腺ホルモンの影響を強く受ける事が、甲状腺機能低下症の症例からも判明している。

<まとめ> 脱毛、白髪は共通の要因も考察できる

- 1、加齢によるホルモン減退（高年齢化に伴い多くなる）
- 2、ストレスによるホルモン減退（抜け毛、薄毛、白髪の低年齢化現象）
- 3、遺伝子による要因
- 4、農薬、食品添加物（ホルモン剤、抗生剤、保存料、着色料）による薬害
- 5、カラーリング、シャンプー等による頭皮のトラブル
- 6、髪の栄養素不足（現代は殆ど満たされているが栄養素としての働きを、何かで阻害されていると思われる）